

# SOUSEI

教えることは、教わること

真似ることは、学ぶこと

特集…曹洞宗青年会の3月11日14時46分



東日本大震災  
慰霊法要特集

曹洞宗青年会の

143  
時月  
4611  
分日

徳寺様での第19教区主催一周忌法要に今まで修行させていただいた月命日法要の一環として随喜させていただきました。また3月11日の全曹青主催一周忌法要にも法要随喜させていただきました。被災地の青年僧侶として何が出来るか考え、今後も活動してゆく所存です。

### 曹洞宗福島県青年会

3月11日、福島県いわき市四倉町海嶽寺様を会場に、東日本大震災一周忌供養ならびに復興祈願法要「祈り」を開催しました。いわき地方の民俗芸能である「じゃんがら念仏踊り」を奉納後、曹洞宗福島県宗務所長・吉岡棟憲老師を導師にお迎えし、一周忌供養が厳修されました。「亡き人を思う気持ちを持ち続け、後世に伝える役割を果たしてほしい」と吉岡老師。梵鐘が響く中で、海に向かって参列者全員で黙祷を捧げました。双葉郡富岡町龍臺寺住職・矢内俊道老師を導師に復興祈願法要が執り行われ、大般若転読により復興を祈願しました。海嶽寺様の檀信徒はもとより、津波でご家族をなくされた方、双葉郡から避難され仮設住宅で暮らしている方々、他県に避難している方々など県内外から約350名の皆様が参列し、亡くなられた方々へのご供養と早期の復興を心から祈りました。



### 曹洞宗山梨県青年会

大震災から一年が過ぎました。山梨県青年会として少しでも現地復興の一助となろうと、幾度も被災地に入って災害ボランティア活動に従事し、県内でも托鉢を行いました。木枯らしが吹く中、駅前での托鉢では身体の芯まで冷えましたが、多くの皆様からあたたかいお言葉と浄財をいただきました。托鉢の最中、震災があった14時46分を迎え、参加者全員で黙祷をさげました。この大震災をいつまでも忘れず、教訓を活かし、乗り越えて行かなければならないと思います。ま

### 曹洞宗北海道青年会

3月11日、様々な宗派のご寺院様が属する小樽仏教会主催の「東日本大震災一周忌法要」が行われ、第一宗務所第七教区青年会北斗会の会員も参加しました。法要は他宗派の寺院を会場に行われ、震災で亡くなられた方のご供養、並びに被災地の復興をご祈念いたしました。

### 秋田県曹洞宗青年会

岩手県各地にて開催の東日本大震災一周忌慰霊法要に、秋田県曹洞宗青年会から22名随喜しました。前日より大槌町入りし、各県の曹青会員とともに大槌町吉祥寺様と江岸寺様、釜石市常楽寺様へ。午後は山田町龍泉寺様にて現地のご寺院様とともに法要を行いました。夜より降り出した雪で辺り一面真っ白の朝を迎え、昨年の震災時を彷彿とさせました。町全体が「慰霊の日」といった様子でどこかもの悲しく、心静かに亡くなられた方々に哀悼の気持ちを手向ける空気が漂っていました。法要には数百名もの方々が参列・焼香し、ご冥福を祈っておられました。



### 宮城県曹洞宗青年会

宮曹青としましては3月5日に仙台サンプラザホールにて厳修されました宗務庁主催・両貳下御親修一周忌法要並びに復興祈祷法要の運営加担、同日亙理町長



# 日本中の祈りが

## 曹洞宗長野県第二宗務所青年会

3月9日、長野県第二宗務所第二教区長照寺様におきまして、東日本大震災被災物故者慰霊法要を行い、皆夫々に被災地の鎮魂と早期復興を願い、焼香をいたしました。



た被災地で必要とされているのは若者の力だと感じました。私たち若き僧侶は、今後も一人でも多くの「心の闇を照らす」お手伝いを続けさせていただきたいと思えます。合掌



## 伊豆曹洞宗青年会

東日本大震災一周忌にあたり、被災地では静岡第一曹青様のお誘いにより、宮城県亘理郡山元町普門寺様での慰霊法要と全日仏青主催・福島県伊達市成林寺様での慰霊法要に随喜いたしました。また、被災していない静岡の方々も慰霊の場を求めていると感じ、地元の三島市・沼津市の若手商店主様たちが主催する復興支援イベントにご協力いただき、沼津市内のイベント会場にて会員11名が法要を厳修いたしました。数百名の来場者があり、来場者からは僧侶の読経・詠讃歌奉詠の中で犠牲者の冥福を祈ることができ、本当によかったとたくさんのお声をいただき、改めて祈るということの大切さ、私たち僧侶の存在意義を再確認いたしました。

## 曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

3月11日、宮城県普門寺様にて行われた『東日本大震災一周忌慰霊法要』に随喜しました。3月15日には岩手県常堅寺住職・後藤泰彦老師の活動「手合せ桜プロジェクト」の呼びかけのもと、桜の苗木を植樹。生徒60名、同校校長、町会議員、地元有志、校庭の仮設住宅に住む方々、岩手曹青の方々、総勢100名が参加。11時30分より、追悼復興諷経。岩手県の龍泉寺様に支援物資を届けました。



## 静岡第三同志会

3月11日午後2時46分、日本中の想いが一つになった瞬間。静岡第三同志会においても、磐田市城之崎の名刹福王寺様法堂で、太田会長が導師をつとめ「東

### 愛知県第三曹洞宗青年会

2月27日、大本山永平寺名古屋別院において、東日本大震災被災物故者追悼法要を永平寺名古屋別院監院・井上義臣老師のご導師により執り行いました。法要後の講演『被災地は今』では、宮城県天雄寺住職・野々村大顕老師、岩手県龍泉寺住職・石ヶ森桂山老師を講師に迎え、未だ復興が進まない現状を伝えていただきました。参列者のみならず随喜寺院にも震災の壮絶さ、一年間の厳しくも仏縁を感じた出来事が染み渡ったようでした。



日本大震災追悼法要」を会員 24 名の随喜のもと厳修いたしました。午後2時30分打ち出しにて本尊上供をつとめ、同46分に大梵鐘が鳴り響く中全員で黙祷をいたしました。参加者各々が様々な想いを感じた一分間の黙祷でした。黙祷後、追悼施食会をつとめました。法要終了後に東日本大震災に関するボランティア報告会、今後のボランティア活動についての話し合いを開催しました。その中で今後とも出来る限りの支援を進めていくことを話し合い、散会いたしました。一日も早い復興と被災された方々に心からの笑顔が戻ることを心より祈念いたします。



### 曹洞宗岐阜県青年会

3月11日、岐阜市太郎丸の吉祥寺様をお借りし、曹洞宗岐阜県青年会主催『東日本大震災物故者慰霊法要』を行いました。導師に岐阜県宗務所所長・時田泰俊老師をお迎えし、全曹青の慰霊法要と同時刻に黙祷。本尊上供、施食法要を行いました。正会員を中心に27名の僧侶、約30名の一般会葬者がありました。



### 愛知県第一曹洞宗青年会

3月5日、愛知第一曹洞宗青年会は、大本山永平寺名古屋別院において慰霊法要を執り行いました。東日本大震災の慰霊施食法要を主題に、当会押田清秀会長の指導の下、施食法要を厳修いたしました。



# 一つになった時

けたカップロウソク 600 個の灯りの中で、梅花流詠讃歌奉詠、復興祈願コンサート、物故者一周忌法要と復興祈願法要を執り行いました。青年会員を中心に県内寺院 26 名、80 人程の一般参詣者と共に、亡くなられた方々のご供養と被災地の復興をお祈りいたしました。集まった応援メッセージは今後の活動の中で被災地へお届けする予定です。



### 大阪曹洞宗青年会

大阪青年会は 3 月 11 日～ 13 日にかけて、第 4 回一斉復興支援現地活動を行いました。11 日は成林寺様における「一周忌慰霊・復興祈願法要」に随喜。法要に参加させていただき、改めて震災にかかる私たちの意識を再確認いたしました。12 日は亘理町・館南仮設住宅において行茶活動を行いました。他宗派の方々とも一緒させていただき、大阪のたこ焼きだけでなく、吉野の葛湯・埼玉のコーヒーなどを集めた行茶となり、大変皆さんに喜んでいただけたようです。13 日は亘理町・公共ゾーン仮設における行茶活動並びに希望者数名は福島市山口における通学路の除染活動に参加いたしました。亘理町公共ゾーンは大阪として 2 回目の訪問となり、避難者の皆様方に多くのお話を伺うことができました。除染活動については大変な勉強と貴重な経験となり、参加者皆が来て良かったと感じました。



# 動

### 三重県曹洞宗青年会

平成 24 年 3 月 11 日、三重県松阪市の海禅寺様にて東日本大震災犠牲者追悼一周忌法要を行いました。近隣の方のみならず、三重県内から多くの方が参加されました。被災された方のことを想い、粛々と法要が行われる中、多くの方にご焼香をしていただきました。また、境内に角塔婆を建て、参加者によって頂いた千羽鶴を掛け、黙祷のモニュメントにいたしました。千羽鶴を折る、多くの子供達の真剣な姿が印象的でした。第 2 部として、寺族さんたちで構成されたコーラスグループ『マーヤの会』、青年会会員有志で結成されたオリジナルバンド『THE ORIGINAL ROADS』、和太鼓グループ『鼓司』の演奏会を行いました。震災に遭われた方々の冥福と復興を想う、祈りに満ちた一日となりました。



### 滋賀県曹洞宗青年会

滋賀県曹洞宗青年会では、先の 3 月 12 日に東日本大震災慰霊行事として、滋賀県大津市内においての義援金托鉢を執り行いました。



### 曹洞宗石川県青年会

曹洞宗石川県青年会では 9 月 11 日より、毎月 11 日に金沢市内で托鉢を行って参りました。3 月 11 日には石川県内で集めた「被災地応援メッセージ」を貼り付

### 大分県曹洞宗青年会

大分県曹洞宗青年会におきましては、一周忌慰霊法要として国東の泉福寺様をおかりして、青年会を中心に県内寺院有志と共に、3月16日に法要を厳修いたしました。



### 佐賀県曹洞宗青年会

佐賀県曹洞宗青年会では、3月5日に佐賀県唐津市の恵日寺様で追悼法要、並びに復興祈願大般若法要を行いました。復興祈願を形として現地に贈ろうということで、手作りしたアラレを贈りました。



### 熊本県曹洞宗青年会

熊本県曹洞宗青年会では2回にわたりボランティア活動報告会を開催してまいりました。3月11日には熊本市・大慈寺様を会場に追悼法要を行いました。会員を中心に25名の僧侶が集まり、新聞や手作りポスターの告知により、被災地から避難されている方々を含む約100名の参列がありました。震災の時刻にあわせて梵鐘を鳴らし、全員で約10分間の静坐を行いました。法要後には天草市観音寺住職・竹林道裕老師より、自らの復興支援活動体験を交えたご法話がありました。



# 祈

### 兵庫県第二宗務所青年会

3月6日に兵庫県第二宗務所第二教区の普蔵寺様に於いて、東日本大震災復興支援托鉢と一周忌慰霊法要を勤めました。午前中に周辺地域を托鉢して回り、午後から慰霊法要を執り行いました。直接に被災された方の参列はありませんでしたが、檀信徒の方3名がお参り下さいました。遠方故、なかなか現地には向かえないのですが、今後も現地入りの調整を続けると共に、当地からの支援も継続していく予定です。参加者皆が犠牲になられた方々を想い、そして被災された皆さんが一日も早く復興に向かわれることを祈っています。



### 山口県曹洞宗青年会

3月11日、山口市禅昌寺様を会場に、「東日本大震災被災物故者一周忌追悼法要」を執り行いました。本堂には約30名が集まり14時から坐禅。14時46分に鐘を鳴り響かせて黙祷を捧げた後、被災地へ心静かに思いを寄せながら、慰霊法要を厳修いたしました。被災地各地で執り行われている慰霊法要と同時刻に、遠く山口県からも祈りを捧げることができました。これからも微力ながら全国の皆様と共に、東日本復興への道を歩んで参ろうと、意識を新たにしたい一日となりました。



# 東北物産持ち寄り百万一心 東日本大震災復興支援プロジェクト

平成23年度山口県曹洞宗青年会『心の大学講座』檀信徒大会



昨日11月30日、東日本大震災復興支援をテーマに山口市禅昌寺様を会場として、心の大学講座・檀信徒大会を開催致しました。当日は快晴にも恵まれ500名を越える方々のご参加を頂きました。開会式に続き被災物故者慰霊法要を厳修。そして5月より県事務所を中心に始めた復興支援活動の様子を写真を交えながら報告し、現地でも活動した会員3名が体験発表。

その後、支援活動でご縁をいただいた岩手県釜石市の伝承芸能『桜舞太鼓』を山口県にお招きし演舞していただきました。メンバーを震災で亡くしながらも、太鼓を瓦礫の中から見つけ出し、地元復興のため、地道に活動を再開された『桜舞太鼓』の力強い「復興の音色」に多くの参加者が感動で涙し、温かい声援と惜しみない拍手を送りました。また、ご自身が被災しながらも記録を撮り続けた釜石市のカメラマン・菊地信平さんご協力のもと、被災地の様子を内側からも知って貰いたいという願いがこもったパネル展「東日本大震災〜避難所から視たもの〜」も同時開催。

お昼にはOB有志、寺教会のご協力を頂きながら「けんちんうどん」の炊き出しを振る舞いました。また東北3県より取り寄せた東北物産展も開きました。

午後からは南こうせつさんの兄でもあり曹洞宗勝光寺住職・南慧昭老師を講師にお招きし、被災地でコンサートを開いた時のお話も交えていただきました（募金は全て東日本大震災・津波遺児支援活動を行っている「あしなが育英会」に寄託）。

改めて震災への意識を高めていただき、被災地から遠くても心寄り添うことの大切さを感じてもらい閉会いたしました。



## 境内にみなぎる復興への意思 岩手県大槌町・震災慰霊法要随喜録

全国曹洞宗青年会・荒木道宗副会長

3月11日 私は岩手県大槌町に立っていた。幾度も報道等で見えてきた光景であるが、津波の爪痕を目の当たりにし改めて被害の甚大なるを再確認した。この日は、全日本仏教青年会、及び全国曹洞宗青年会を代表し櫻井監事、永島総合企画委員、いずも曹青会5名と共に、岩手県大槌町の江岸寺様の震災慰霊法要に随喜する為、全曹青災害復興支援現地本部のある、伊達市霊山町の成林寺様より車での岩手入りである。

発災より一年のこの日、いつもより混雑しているであろう東北自動車道を走り、岩手県大槌町に到着した。津波により基礎だけになった住宅、おそらくご家族であろう方が花を手向けている光景が目立つ、未だ撤去ままならない大量の瓦礫や、津波に耐え、その被害を雄弁に語る建造物が圧倒的な存在感で我々に語りかけて来る。

岩手県大槌町江岸寺様は曹洞宗寺院の中で最も被害が甚大であろう寺院の一つである、プレハブ建ての仮本堂で方丈様にお聞きした、「すべてが流されました、何も残りませんでした」の言葉が生々しく震災を語っていたが、その目は必ず復興するという意志で漲っていた。江岸寺様での震災慰霊法要は大勢の檀信徒の皆様焼香のなか修り行され、その後は港まで行脚し浜辺での慰霊法要を行った。復興まで道半ばとも言い難い状況ではあるが、大槌町の皆様の確かな足取りが復興への強い意志に感じられた。

末筆ではありますが、被災地の一日でも早い復興と新たな一歩を冀い、さらには我々もその一助となれる様に祈念し、岩手県大槌町江岸寺様での震災慰霊法要随喜の報告とさせていただきます。

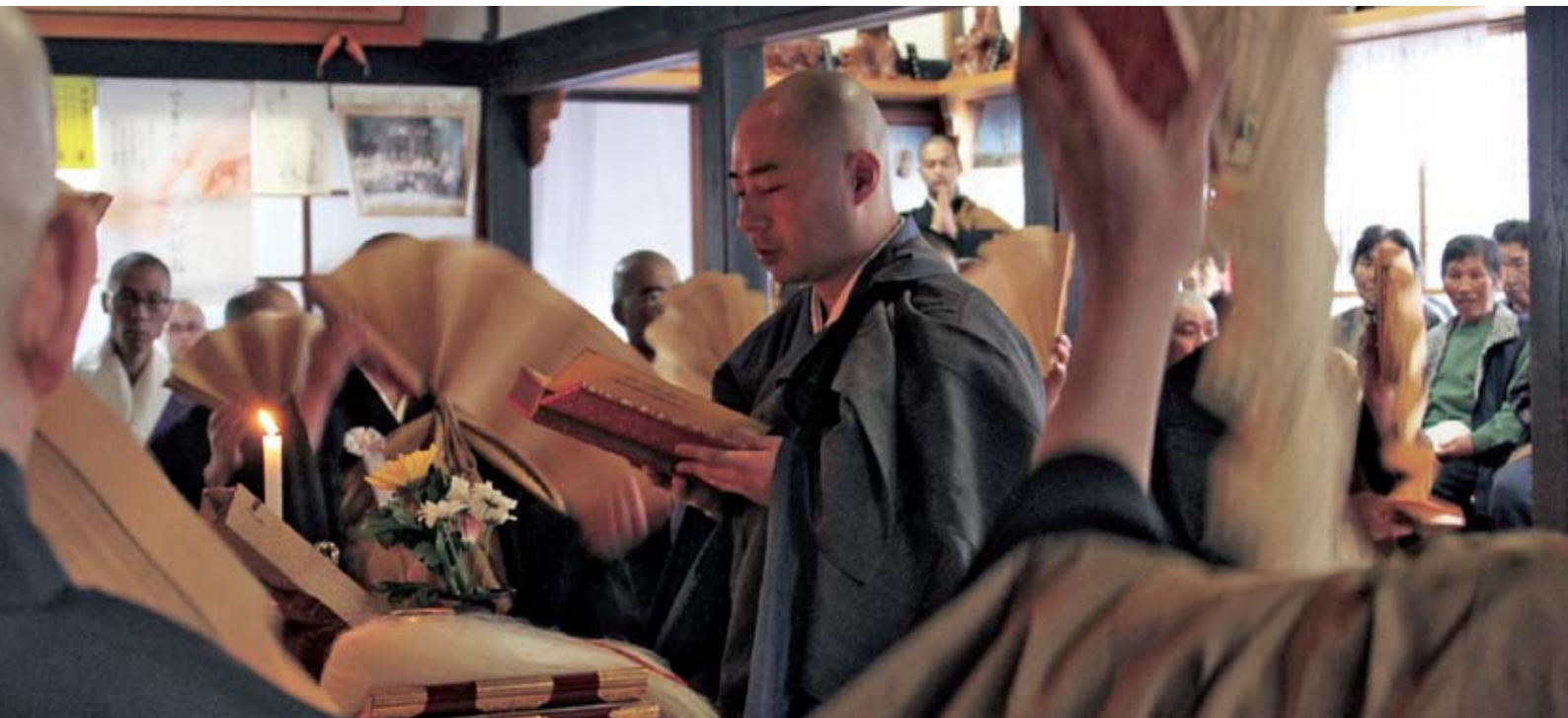




# 禅文化学林

東日本大震災慰霊・復興祈願法要

時間・空間・宗派を超える「巡る、悼み」



東日本大震災復興祈願法要の導師を務める松岡広也会長

## 禅文化 学①林

### 震災慰霊法要随喜録

東日本大震災慰霊・復興祈願法要 福島県成林寺

### 3

月11日、全曹青災害復興支援現地本部が置かれている福島県成林寺様において、東日本大震災慰霊・復興祈願法要が開催された（主催／全日本仏教青年会、主管／全国曹洞宗青年会、協賛／世界仏教青年連盟）。

会場である成林寺様の本堂には、早朝から宗派を超えて大勢の僧侶が続々とつめかけた。本堂の須弥壇周囲は、両大本山をはじめ、数多くのご寺院、企業様から寄せられた供花で荘厳され、同時展開されているパネル展「巡る、悼み。」大震災に縁り添う僧侶たち」の一部も展示されるなど、禅文化学林を集大成したかのような密度に覆われていく。

そして、午前11時からの本尊上供（導師成林寺住職・久間泰瑞老師）を終える頃には、準備が万端に整った。午後1時を過ぎ、成林寺の檀信徒の皆さん、飯館村から避難されて来られている方々などが静かに参集。沈痛な面持ちで本堂に足を踏み入れた一般参列者たちが、静かにその始まりの時を待つ。

午後2時過ぎ。法要に先立ち、福島県で医療活動が続けられる、東京大学医科学研究所特任教授・上昌広氏が、「放射能と内部被ばく」をテーマに講話。福島県における震災後の状況を紹介しながら、「政府のせいにするのでは何も進まない。いま必要なのは高いノウハウや熱情。被災地を良くするのはシステムや仕組みではなく、一人でいいので、『本当にやるんだ』という人がいる所が動いている」とのメッセージを伝えると、心なしか随喜した僧侶たちに、一様に決意のまなざしが宿ったように感じられた。

午後2時半、慰霊法要の打ち出し。導師を務めた全日仏青・村山博雅理事長の入堂、金峯山青年僧の会有志による法螺の厳かな奉奏、開式の辞、来賓挨拶（全日本仏教会事務総長・戸松

#### 禅文化学林とは

「禅文化学林」とは、全国曹洞宗青年会の主たる事業の一つです。全国曹洞宗青年会は、昭和50年11月に発足しましたが、「禅文化学林」は創成期から現在まで継続開催されてきております。開催の目的は、「禅の教えを通じて、人間の信仰する心と人生の意味づけを明確にし、一般・僧侶両者が禅の教えを体系的、体験的に学んでいく」というものです。名称の「禅・文化・学・林」とは、それぞれが個別の意味を持っております。端的に申せば、禅という文化を学ぶ林（場所）ということです。



慰靈法要にて法語を唱える全日仏青村山博雅理事長

義晴上人」と続き、震災発災時刻である午後2時46分、鐘の音が響く中、一同で黙祷を捧げた。随喜された全日仏青諸師による献灯、災害復興支援現地本部スタッフによる献花、拈香法語、上香焼香、献湯菓茶（独詠「新亡精霊御和讃2番」）。寿量品偈・舍利札文（行道三匝）の読経中には、一般参列の方々が焼香し、震災物故者に祈りを捧げた。そして、回向、法螺奉奏、導師退堂、来賓挨拶（曹洞宗 宗議会議員 高松祖學老師）と続き、前半の慰靈法要が幕を閉じる。

引き続き、東日本大震災復興祈願法要（転読大般若 打ち出し。導師を務める全曹青・松岡広也会長が入堂し、慰靈法要と同様に法螺が奉奏された後、拈香法語、上香普同三拜、浄道場、献湯菓茶（独詠「供華」）、祈禱太鼓の中、般若心経読経（三遍）と法要は続く。そして、大般若の転読（三十巻）。「降伏一切天魔最勝成就」と大間を埋め尽くした随喜衆の励声が続く、本堂内は徐々に熱気を帯びていく。さらに、普門品偈・消災咒（三遍）読経中には、松岡会長が堂内及び研修会館を巡堂し、転読によって般若の風を送り、参列者・被災された方々の身体健康・身心安寧・諸災消除を祈願。法要の終了を告げる法螺奉奏の後、松岡会長が退堂し、復興祈願法要は無事円成した。

法要後、宗教者災害支援連絡会代表・島蘭進氏が「東日本大震災、宗教者の活動と青年僧へのエール」と題して講話。「これまでの日本・人間の在り方が大きく問われる中、精神的な価値、宗教の力を人心が求めている。また、未だ多くの方々が悲しみを抱えている中、『悲しみの容れ物』である宗教の力は大きい。若い僧侶の方々の行動に期待したい」とのメッセージを送られた。さらに、タイより来日した、世界仏教青年連盟（WFBY）事務総長・Denphong Suwannachairop 氏より挨拶をいただいた。最後に、主催者挨拶・閉式の辞を、村山博雅理事長が述べ、午後4時半、2時間半に及ぶ両法要が幕を閉じた。

全日仏青会員、全曹青会員による宗派を超えた荘厳な法要となった本行事には約200名が参列。全曹青としては初めての試みとなった USTREAM によるインターネット中継を、のべ約350名の方が閲覧するなど、時間、空間、宗派を超え、心一つに祈りを捧げる機会となった。



※法要の様子は USTREAM の録画画像にてご覧いただけます。http://www.ustream.tv/recorded/21027205



# 禅文化 互いの息災願って 学@林 和太鼓で交流演奏

被災地慰励イベント

**禅** 文化学林開催期間の最終日となった  
3月18日、先に東日本大震災慰霊・

復興祈願法要が行われた福島県の成林寺様  
において、浪江町と飯館村から仮設住宅に  
避難している方々や、伊達市市民の皆さん  
を招いての、「慰励（慰め、励ますこと）の造  
語」イベントが執り行われた。

午前の部では、公益社団法人シャンティ  
国際ボランティア会と落語芸術協会との共  
催で、本堂にて『復興応援寄席』を開催。子  
どもからお年寄りまで約80名の観覧があり、  
誰もが久しぶりに目にした見事な話芸に笑  
みと歓声を挙げておられた。また、境内で  
は手づくりのうどん・豚汁・ごま豆腐など  
の振る舞いも実施され、この日のために青  
年会会員が用意した組み立て式の足湯で体  
を温めていただいた。

午後の部は『復興応援太鼓・交流演奏会』  
と題して、子ども達が元気一杯に演奏する  
織姫太鼓と、地域で長い歴史を持つ霊山太  
鼓有志の演奏が行なわれた。昨年の震災で  
太鼓を始めかけがえのない財産を失った霊  
山太鼓は、全国からの寄贈と声援でようや  
く新たな一歩を踏み出したばかり。困難を  
乗り越えて打ち鳴らされる力強い響きに、地

元の人々から盛んな声援が送られた。交流  
演奏の最後を務めたのは、三重県曹洞宗青  
年会が組織する和太鼓チーム『鼓司（くす）』。  
法衣に網代傘姿での登場に、観客は驚きの  
表情。静かに始まった旋律が次第に激しさ  
を増すにつれ、境内は高揚した一体感に包  
まれた。心が込められた鼓司の演奏に触れ、  
涙を浮かべるお年寄りの姿も見られ、演奏  
後には「今日は元気がもらえました。あり  
がとう」との感想も聞かれた。

「私自身、昨年は震災直後に被災地に立ち、  
いずれこの地に祈りの太鼓を響かせたいと  
願っていました。こうして太鼓の盛んな東  
北の地で交流演奏ができましたこと。大変  
ありがたく思います。復興への道程はまだ  
長いですが、これからも心を携えて、この  
地で汗を流す仲間のもとに駆けつけたいと  
思っています。そう話すのは鼓司の一員と  
してバチを握る倉島隆行広報委員長。

禅文化学林としての予定を全て滞りなく  
終え、松岡広也会長と久間泰弘顧問から、「今  
後も共に時間を共有し、少しずつ前進して  
いきましよう」との言葉がかけられると、晴  
天下の境内に明るい笑顔があふれた。

落語では三遊亭遊之介師匠の噺に皆さん爆笑



太神楽で観衆を魅了した鏡味正二郎先生



笑顔で拍手を送る参加者の皆さん



霊山太鼓は地域の伝統を守る味わいある演奏を披露



和太鼓交流では織姫太鼓の心躍る演奏から



織姫太鼓の子どもたちにハチを贈る鼓司メンバー



一心に太鼓を打つ鼓司メンバーの倉島広報委員長

# 禅文化 学④林

## パネル展『巡る、悼み。大震災に縁り添う僧侶たち』被災地活動を全国で報告



銀座でのパネル展



郡山市でのパネル展



名古屋市でのパネル展

**平** 成23年度・禅文化学林の開催に合わせ、東日本大震災の発生から今日に至るまでの全曹青会員の活動を総括したパネル展『巡る、悼み。』大震災に縁り添う僧侶たち』が開催されました。加盟団体などにも画像提供を頂き、作成された全33枚のパネルは、フォトジャーナリストの國森康弘氏の監修によって、それぞれ「畏れと悼み」（発災直後）、「縁り添う」（緊急支援期）、「念じ立つ」（生活自立支援期）、「生破

（今後の展望）と題した4つの区分に構成され、被災地の復興と縁起・縁生の理が表現されました。  
パネル展に会場した女性は「普段、あまりお坊さんの姿を見る機会はありませんが、現地でボランティア活動している写真を見ると親しみが湧きます」と言い、パネル写真と國森氏のキャプションをじっくりと鑑賞していました。

〔展示会場〕  
愛知県名古屋市中区・地下鉄栄駅ギャラリーチカシン  
大阪府・阪急電鉄梅田駅ギャラリーコーナー  
宮城県・仙台サンプラザ  
（東日本大震災物故者一周忌慰霊法要・復興祈願法要会場内にて）  
大阪府・JR新大阪駅液晶掲示板  
福島県郡山市・うすい百貨店  
東京都・銀座ギャラリー  
福島県郡山市・ショッピングモールドフェスタ  
福島県伊達市・成林寺様客殿  
福島県福島市・コラッセ福島3F企画展示室

### 3月1日から18日の期間 現地でボランティア推進



# 禅文化 学④林

禅文化学林期間中、仮設住宅や集会所での行茶活動や除染作業に各団体が積極的に参加しました。3月12日は宮

城県亘理郡亘理町にある館南仮設住宅での行茶活動を実施しました。大阪曹洞宗青年会が本場のたこ焼きを振る舞ったり、金峯山青年僧の皆さんがくず湯を提供したり、又、全日本仏教青年会の方も拘りの豆から挽いたコーヒーを振る舞うなど集会所は東と西の方言が入り混じり楽しく賑わいました。

前日が震災一年目の節目ということもあり「今日お坊さんと話が出来て良かった」との声をいただき、震災から一年経過した現地の様子や、今必要とされる支援について実際に被災者の方々の声を伺う事が出来ました。

# 禅文化学林の御礼

3月1日より3月18日にかけて開催いたしました禅文化学林『巡る、悼み。』が明日への新たな一歩』に際しまして、全国の様々な団体・個人より心強いご支援・ご協力を賜りました事、厚く御礼申し上げます。

福島県伊達市霊山町成林寺様での「東日本大震災慰霊・復興祈願法要」、「慰励イベント」、及び、期間中に被災地各所で行われた慰霊法要・ボランティア活動、さらには、全国で開催されたパネル展『巡る、悼み。』大震災に縁り添う僧侶たち』に多くの皆様のご参加を頂戴し、全ての行事を無事円成させて頂きました。

全国曹洞宗青年会は、今期のスローガンに「今が明日への新たな一歩」を掲げ活動いたしております。被災地における支援活動が復興への一助となる様、さらには、被災者の新たな一歩がより力強いものとなる事を冀うと共に、末筆ではございますが、関係諸氏の今後益々のご活躍とご健勝を祈念し、平成二十三年度禅文化学林のご報告とさせて頂きます。

全国曹洞宗青年会会長 松岡広也 九拝

## 東日本大震災慰霊・復興祈願法要参加者御芳名

全日本仏教会事務総長  
 福島県仏教会会長  
 福島市仏教会会長  
 福島選出宗議会議員  
 福島県宗務所所長  
 福島県宗務所副所長  
 福島県宗務所教化主事  
 福島県宗務所庶務主事  
 成林寺住職  
 常円寺住職  
 世界仏教青年連盟  
 宗教者災害支援連絡会代表  
 宗教者災害支援連絡会世話人  
 宗教者災害支援連絡会世話人  
 東京大学医科学研究所特任教授  
 全日本仏教青年会執行部 様  
 天台仏教青年連盟 様  
 金峯山青年僧の会 様  
 融通念佛宗青年会 様  
 埼玉県佛教青年会 様  
 大阪府佛教青年会 様  
 (社) 神戸青年仏教会 様  
 茨城県曹洞宗青年会 様  
 曹洞宗山梨県青年会 様

戸松義晴 様  
 三村眞城 様  
 横山俊邦 様  
 高松祖學 様  
 吉岡棟憲 様  
 楠 俊道 様  
 関口孝俊 様  
 佐藤正彦 様  
 久間泰瑞 様  
 阿部光裕 様  
 Dr.Denphong Swannachairop 様  
 島蘭 進 様  
 岡田真美子 様  
 荻輪顕量 様  
 上 昌広 様

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会 様  
 伊豆曹洞宗青年会 様  
 愛知県第一曹洞宗青年会 様  
 愛知県第三曹洞宗青年会 様  
 三重県第二曹洞宗青年会 様  
 大阪曹洞宗青年会 様  
 曹洞宗鳥取県青年会 様  
 四国地区曹洞宗青年会 様  
 九州曹洞宗青年会 様  
 福岡県曹洞宗青年会 様  
 佐賀県曹洞宗青年会 様  
 宮崎県曹洞宗青年会 様  
 曹洞宗長野県第一青年会 様  
 曹洞宗福島県青年会 様  
 宮城県曹洞宗青年会 様  
 岩手県曹洞宗青年会 様  
 青森県曹洞宗青年会 様  
 全国曹洞宗青年会  
 災害復興支援現地本部局員  
 他、一般参加者 様

総合計 187名  
 平成24年3月11日受付分迄  
 (順不同)

曹洞宗菅長 猊下  
 曹洞宗宗務総長 様  
 大本山永平寺 様  
 大本山總持寺 様  
 成林寺 様  
 岳林寺 様  
 茂林寺 様  
 普蔵寺 様  
 耕雲寺 様  
 光明寺 様  
 円通寺 様  
 白鱗寺 様  
 福島県仏教会 様  
 福島市仏教会 様  
 福島県宗務所 様  
 福島第四教区 様  
 茨城県曹洞宗青年会 様  
 曹洞宗山梨県青年会 様  
 愛知県第三曹洞宗青年会 様  
 奈良県曹洞宗青年会 様  
 曹洞宗鳥取県青年会 様  
 曹洞宗長野県第一宗務所青年会 様  
 曹洞宗長野県第二宗務所青年会 様  
 九州曹洞宗青年会 様  
 福岡県曹洞宗青年会 様  
 佐賀県曹洞宗青年会 様  
 宮崎県曹洞宗青年会 様  
 鹿児島曹洞宗青年会 様  
 東北地区曹洞宗協議会 様  
 関東管区曹洞宗青年会 様  
 近畿曹洞宗協議会 様  
 中国管区曹洞宗青年会 様  
 四国地区曹洞宗青年会 様  
 天野祐至近畿管区理事 様  
 成林寺総代長 柳沼泰衛 様  
 宗援連有志一同 様  
 箕輪顕量 様  
 福島リコピー 様  
 木崎勉法衣仏具店 様  
 木谷仏壇店 様  
 国書刊行会 様  
 明星保育園 様  
 織造石材 様  
 カナメ 様  
 梅金商店 様  
 創文社印刷 様 (順不同)

献花御礼

「常態を保つのが、住職・寺族の務めなんです。私たち自身、皆さんから力をいただいたからこそ、ここまで歩んで来られました。」

全曹青災害復興支援現地本部が置かれている成林寺様。かつての現地本部だった、境内にある研修会館の一室で、住職・泰瑞老師と寺族・カズコさんは感慨深げにうなずいた。あの日、成林寺は震度6弱の揺れに襲われた。幸い、本堂の壁の一部はがれ落ち、研修会館が建つ土手が4、5cm沈下したのみで被害は軽微だった。しかし、兼務寺院や、副住職の泰弘師が住職を務める寺院を見回ると、おびただしい数の墓石が倒壊しており、また、近隣の住宅の屋根には大きな被害があった。テレビなどで地震や津波の惨状を見ながら、その被害の凄まじさにただただ圧倒される日々が続いたという。

事態が一変したのは、3月14日の深夜1時25分。長年教師をしていた泰瑞老師の、教え子からの1本の電話だった。「先生、原発がひどい状況ですよ。逃げてください！」その一言で、初めて福島第一原発の事故のひどさを認識したという。「とはいえ、住職としての日々の務めがある。それをほっぽり出すわけには行かなかった…」会議で上京していた泰弘副住職は14日の夜に福島空港への臨時便を利用して帰坊。その後、17日には長野県からボランティアと救援トラックが着いたことを皮切りに、全国から続々と物資が届き、多くの青年僧侶が訪れることになる。その物資を保管したのが、お話を聞きした研修会館の一室だったのだ。それから、今日に至るまで、現地本部の活動を支えるお二人がおっしゃるには「無我夢中」の日々が始まる。

#### 東日本大震災被災地寺院レポート④

# 地域の常態を保ち 拠点となったお寺

福島県伊達市／曹洞宗 成林寺

写真左 物資で一杯になった、研修会館の様子  
写真下 災害復興支援現地本部







電話やファックスに昼夜を問わず対応し、また、夜遅くに到着することもある青年僧侶に、暖かい食事やお風呂を提供する事もあった。多くの青年僧侶の積極的に動く姿を見て、「曹洞宗は大丈夫だとの意を強くしました」泰瑞老師はそう力強く話す。

成林寺が現在抱えている大きな問題として、福島第一原発事故の影響による、放射能の問題がある。成林寺では、昨年12月15日に、全曹青会員及び檀信徒、地域の方々を中心に除染を実施した。しかし、今後、この除染を行っていく上では、大きな課題があると泰瑞老師は言う。「仮置き場がなかなか確保できないんです。」幸い、成林寺での除染の際にはぎ取った表土の仮置き場は、

近隣の方の協力で円満に決まったが、伊達市においてはなかなか決まらない現状がある。さらに、事態が深刻なのは、伊達市内、各地域、さらには家庭内における、放射能をめぐる様々な「分断」だ。避難をする・しない、地元で収穫された野菜を食べる・食べないなど、家庭内においても精神的分断が起きているという。

『山百合』——カズコさんが震災直後から昨年の夏頃までに経験したこと、そしてその心情を編んだ詩集だ。この詩集には、「放射能」に対する静かな怒り、悔しさが込められ、読む者の心を打つ。その『山百合』の中に、4月20日の入浴中に大声を出して泣いたエピソードが綴られている。「それまでは泣く余裕がなかったんですが、いずれ孫は避難するんだろうなと思ったら、一気に心が萎えちゃったんでしょうね。今思えば、家族がバラバラになるという現実を納得させる涙だったんだと思います」。お孫さんとお嫁さんは現在伊達市から避難している。今は大変さびしいが、将来（避難させたことは）分かってもらえるかな」と、泰瑞老師と共に、「ご自身を納得させるように、こうおっしゃっ

た。

さまざまな困難と向き合っているお二人は、成林寺における住職と寺族の役割は、とにかく『常態』を保つことだと考えている。現地本部を受け入れるにあたって、何度も総代や世話人の方々と会議を行い、納得してもらっているという。また、御自身の健康への留意を忘れず、まさに青年僧侶の活動の舞台の土台づくりに懸命に取り組んでおられる。泰瑞老師が考える寺院が平素よりなすべきこと。それは何より、檀信徒、近隣住民との常日頃からのコミュニケーションに努力することだという。本堂の被害が少なかつた理由として、平成9年に本堂屋根の改修を行った際に、土台を取り換えたことをあげられた。「常日頃から、耐震補強などに取り組んでおくべきです。建物の被害が少なかつたからこそ、現地本部を引き受けられたんです」と、今回の震災での経験を踏まえ、そう訴える。

福島県では放射能による被害がいつまで続くか分からない。そのような中、泰瑞老師は、とにかく今は、お寺を支えてくれている方々と力を合わせ、『常態を保つ』こと

を心がけていきたいと話す。そのような先が見えない苦悩に頭を痛める中で、青年僧侶の動きには、大いに励まされていると言う。「作家・高村薫氏が、とある新聞紙上で言っていたんです。今こそ宗教者は野に出なければなりません。その点では、青年僧は、まさに野に出て寄り添っています。私が強調したいのは、慰霊・復興祈願の大法要を行った後に、彼らは間髪入れずに行茶活動や除染活動などの行動を起こしていること。そういう青年僧は誇り高いと思いますし、真の宗教の使命を果たしている。だからこそ協力できるんです。」

多くの青年僧侶が活動する舞台を支える人がいる事実を、私たちは忘れてはならない。泰瑞老師はさらにこう言う。「高村氏も言っていました。宗教者の役割である、『悲しみや苦しみを受け容れていくということ』正授』を実践して欲しい。歴史の大転換点にこそ、仏教の智慧が必要とされていますし、僧侶の力が試されているのですから。」

文・写真／広報委員会 長岡俊成

## 大転換期である現代にこそ 仏教の智慧が求められている

曹洞宗 成林寺住職 久間泰瑞老師

※この取材をはじめ、当連載の全文版を、「sousei on web」に掲載しております。併せてお読みください。  
パスワード「1902」

全国曹洞宗青年会の活動は皆様の賛助費に支えられております。  
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

48 神照寺 様

●宮崎県

12 台雲寺 様

●長野県第 1

12 松巖寺 様

65 柳原寺 様

86 円福寺 様

102 真龍寺 様

123 真蔵寺 様

243 広徳寺 様

300 威徳院 様

306 城光院 様

322 守芳院 様

●長野県第 2

400 長久寺 様

406 広沢寺 様

512 浄蓮寺 様

537 正法寺 様

557 広正寺 様

558 無量寺 様

566 広明寺 様

594 地蔵院 様

●福井県

69 竜門寺 様

161 久永寺 様

276 地蔵院 様

297 満願寺 様

●石川県

75 大覚寺 様

●富山県

26 徳城寺 様

46 祇樹寺 様

114 光臺寺 様

125 霊眼寺 様

205 慈眼寺 様

208 地蔵寺 様

●新潟県第 1

358 円光寺 様

366 清岩寺 様

390 東禅寺 様

393 曹源寺 様

408 昌福寺 様

454 林昌寺 様

460 竜谷院 様

●新潟県第 2

710 晃照寺 様

●新潟県第 3

532 常福寺 様

535 普光寺 様

637 洞泉寺 様

646 名立寺 様

●新潟県第 4

44 百観音院 様

69 永明寺 様

112 常安寺 様

182 正法寺 様

238 光浄寺 様

265 東林寺 様

295 普濟寺 様

733 光明寺 様

738 不動寺 様

814 地蔵院 様

●福島県

101 成林寺 様

110 龍徳寺 様

121 長泉寺 様

153 長壽院 様

157 万持寺 様

174 龍穩院 様

226 常隆寺 様

231 円通寺 様

340 慶徳寺 様

370 秀長寺 様

●宮城県

7 保寿寺 様

35 竜雲院 様

47 西光院 様

69 見松寺 様

115 円竜寺 様

141 自照院 様

286 統禪寺 様

332 大通寺 様

344 龍澤寺 様

387 福田寺 様

414 虎溪寺 様

440 城國寺 様

446 柳徳寺 様

●岩手県

3 東頭寺 様

12 沼福寺 様

52 福蔵寺 様

186 大光寺 様

232 龍昌寺 様

278 宝鏡院 様

●青森県

100 澄月寺 様

166 高德寺 様

183 大乘寺 様

●山形県第 1

12 正徳寺 様

91 昌林寺 様

113 洞興寺 様

142 陽春院 様

148 定林寺 様

201 東照寺 様

232 広際院 様

238 西来院 様

●山形県第 2

346 長福寺 様

●山形県第 3

433 祐性院 様

641 宝泉寺 様

672 妙泉寺 様

●秋田県

22 源正寺 様

71 相川寺 様

85 寶圓寺 様

89 高建寺 様

96 円通寺 様

104 普門院 様

165 能持院 様

174 満福寺 様

192 善福寺 様

258 鳳来院 様

261 見性寺 様

294 浄福寺 様

313 立昌寺 様

●北海道第 1

14 廣福寺 様

18 高聖寺 様

69 大林寺 様

94 曹源寺 様

●北海道第 2

102 興禅寺 様

165 玉運寺 様

191 泰源寺 様

248 總泉寺 様

299 永福寺 様

458 定賢寺 様

485 良興寺 様

●北海道第 3

146 晃徳寺 様

149 金龍寺 様

218 報恩寺 様

220 白麟寺 様

235 常照寺 様

244 報國寺 様

460 道貫寺 様

## ボランティア基金感謝録

平成 24 年 1 月 6 日～ 3 月 12 日取扱分

静岡県 智満寺 様

静岡県 松寿寺 様

東京都 青松寺 様

茨城県 大統寺檀信徒 様

愛知県第一曹洞宗青年会 様

福岡県曹洞宗青年会 様

愛媛県 興雲寺 様

福岡県 禅興寺 様

佐賀県 長得寺 様

大阪府 南詢寺 様

佐賀県 無量寺 様

曹洞宗福島県宗務所 様

鹿児島県曹洞宗青年会 様

九州曹洞宗青年会 様

兵庫県 長楽寺 様

兵庫県第二宗務所青年会 様

愛媛県 興雲寺住職・檀信徒一同 様

神奈川県 今西希久代 様

(順不同)

## 平成 23 年度 祝賀一覧

大本山總持寺監院 乙川暎元 様

福島県 龍徳寺 様

鹿児島県 龍光寺 様

愛媛県 法華寺 様

山口県 福昌寺 様

北海道 白麟寺 様

愛知県 興昌寺 様

山梨県 正覚寺 様

岩手県 長福寺 様

(順不同)

# 贊助費淨納御芳名簿

平成 24 年

1/6 ~ 3/12 取扱分



## ●東京都

25 慈眼院 様  
30 豪徳寺 様  
46 南臺寺 様  
57 功雲院 様  
60 陽壽院 様  
122 妙法寺 様  
123 春清寺 様  
235 金光寺 様  
239 宗保院 様  
240 東雲寺 様  
258 東光寺 様  
295 法心寺 様  
345 正法院 様  
355 寶光寺 様  
363 天正寺 様

## ●神奈川県第 2

31 貴雲寺 様  
45 真福寺 様  
93 曹源寺 様  
126 常泉寺 様

## ●埼玉県第 1

59 長龍寺 様  
190 廣徳院 様  
434 安養院 様

## ●埼玉県第 2

204 善仲寺 様  
207 蓮光寺 様  
331 曹源寺 様

## ●群馬県

89 竜昌寺 様  
111 雲林寺 様  
168 大雄院 様  
194 善宗寺 様  
257 長伝寺 様  
266 南窓寺 様  
271 雲門寺 様  
281 永隣寺 様  
311 泉通寺 様  
333 大雲寺 様

## ●栃木県

51 豊栖院 様  
105 大雄寺 様  
175 本光寺 様

## ●茨城県

1 祇園寺 様

134 大統寺 様  
182 龍心寺 様  
197 長竜寺 様

## ●千葉県

7 満蔵寺 様  
9 東昌寺 様  
68 超林寺 様  
76 全宅寺 様  
95 寶應寺 様  
194 中瀧寺 様  
315 雲竜寺 様

## ●山梨県

57 宗禪寺 様  
162 法久寺 様  
232 円通寺 様

## ●静岡県第 1

71 福寿院 様  
109 玉泉寺 様  
126 一乗寺 様  
127 楞嚴院 様  
152 宝持院 様  
161 庚申寺 様  
162 定輪寺 様  
391 十輪寺 様  
401 旭伝院 様  
464 正泉寺 様

## ●静岡県第 2

240 醫王寺 様  
267 修禅寺 様  
319 源光院 様  
339 竜豊院 様  
362 福泉寺 様  
368 曹洞院 様

## ●静岡県第 3

584 長興寺 様  
607 石雲院 様  
767 大雲院 様  
832 善勝寺 様  
1210 雲江院 様  
1248 圓光寺 様  
1261 高林寺 様

## ●静岡県第 4

1135 林慶寺 様  
1140 竹林寺 様  
1177 礼雲寺 様

## ●愛知県第 1

70 慈濟寺 様  
82 成福寺 様  
101 成福寺 様  
120 宝珠院 様  
131 天年寺 様  
153 全久寺 様  
156 地蔵寺 様  
158 秀伝寺 様  
229 寶泉寺 様  
293 康勝寺 様  
313 長松寺 様  
354 広濟寺 様  
358 玉泉寺 様  
605 天徳寺 様  
606 向陽寺 様  
628 靈岩寺 様  
635 永澤寺 様  
1229 玉林寺 様

## ●愛知県第 2

684 花井寺 様  
722 妙劉寺 様  
819 江福院 様  
858 大円寺 様

## ●愛知県第 3

523 本光寺 様

## ●岐阜県

36 薬王寺 様  
75 地蔵院 様  
90 林広院 様  
102 桂昌寺 様

## ●三重県第 1

7 海蔵寺 様  
24 一心院 様  
36 法安寺 様  
37 四天王寺 様  
38 傳法寺 様  
83 涼泉寺 様  
183 光徳寺 様  
188 広泰寺 様  
246 宝泉院 様  
276 地蔵院 様

## ●三重県第 2

391 永明寺 様

## ●京都府

45 正法寺 様

73 春現寺 様  
171 太虚寺 様  
369 洞養寺 様  
386 徳運寺 様  
389 萬福寺 様  
392 運祥寺 様

## ●大阪府

26 天徳寺 様  
27 崇禅寺 様  
38 慈願寺 様  
69 永興寺 様  
81 常慶寺 様

## ●奈良県

26 蔵心寺 様  
68 景德寺 様

## ●兵庫県第 1

9 三宝院 様  
55 長命寺 様  
287 向榮寺 様  
305 雲晴寺 様  
368 総持院 様  
375 金剛寺 様

## ●兵庫県第 2

149 瑞光寺 様  
215 帰仰寺 様  
221 永源寺 様  
289 長松寺 様

## ●岡山県

1 円通寺 様  
3 長川寺 様  
4 威徳寺 様  
125 大椿寺 様  
127 慈眼寺 様

## ●広島県

7 伝福寺 様  
23 阿弥陀寺 様  
34 吉祥寺 様  
46 双照院 様  
63 長福寺 様  
67 西福寺 様  
93 賢忠寺 様  
135 鳳林寺 様  
167 正安寺 様  
187 仙房寺 様

## ●山口県

142 弥勒寺 様  
172 広福寺 様  
204 中善寺 様  
243 覚天寺 様  
262 慈光寺 様

## ●鳥取県

146 妙楽寺 様  
163 雲光寺 様  
195 普音寺 様

## ●島根県第 2

5 地福寺 様  
17 円光寺 様  
63 龍覚寺 様  
144 福知寺 様  
161 太林寺 様  
187 養善寺 様  
195 總光寺 様

## ●愛媛県

3 明應寺 様  
57 円通寺 様  
93 長命寺 様  
111 大通寺 様  
113 西禅寺 様  
146 興雲寺 様

## ●福岡県

15 竜国寺 様  
28 桂木寺 様  
103 天聖寺 様  
149 大聖寺 様

## ●大分県

93 神光寺 様  
175 羅漢寺 様

## ●長崎県第 1

8 円福寺 様  
47 薬王寺 様  
78 宝泉寺 様

## ●長崎県第 3

99 玉泉寺 様

## ●佐賀県

194 普恩寺 様

## ●熊本県第 1

13 浄国寺 様

# 聴く禅

## 第四回 傾聴とメタ認知

広報委員会委託委員 青野貴芳

文章の書き出しは気を遣う部分だと思えます。本稿もまた、フライングを繰り返すランナーのように、何度も書いては直し書いては直ししています。

そういえば「作文は一晚経ってから見直しなさい」と学校の先生に言われたなあと思ひ出しました。集中して一気に文章を書き上げて、「よし！できたあー！」と鼻息も荒く拳を突き上げてみたものの、同じ文章を翌日読んでみると何とも気恥ずかしく感じられる。けっこう多くの方が経験しておられることでしょうか。今まさに、そんな感じで推敲しているのですが、実は、これもメタ認知のお蔭ではないかと思ひ至りました。時間をおくと文章を客観的に見ることができるようになりますから。

しかし、もしかしたらメタ認知はかなり適用範囲の広い概念で、何でもメタ認知と言えるんじゃないか……そんな恐れを抱きつつ、今回は、私の思いつきの中核部分のご開陳と相なります。

### 1 傾聴の構造について

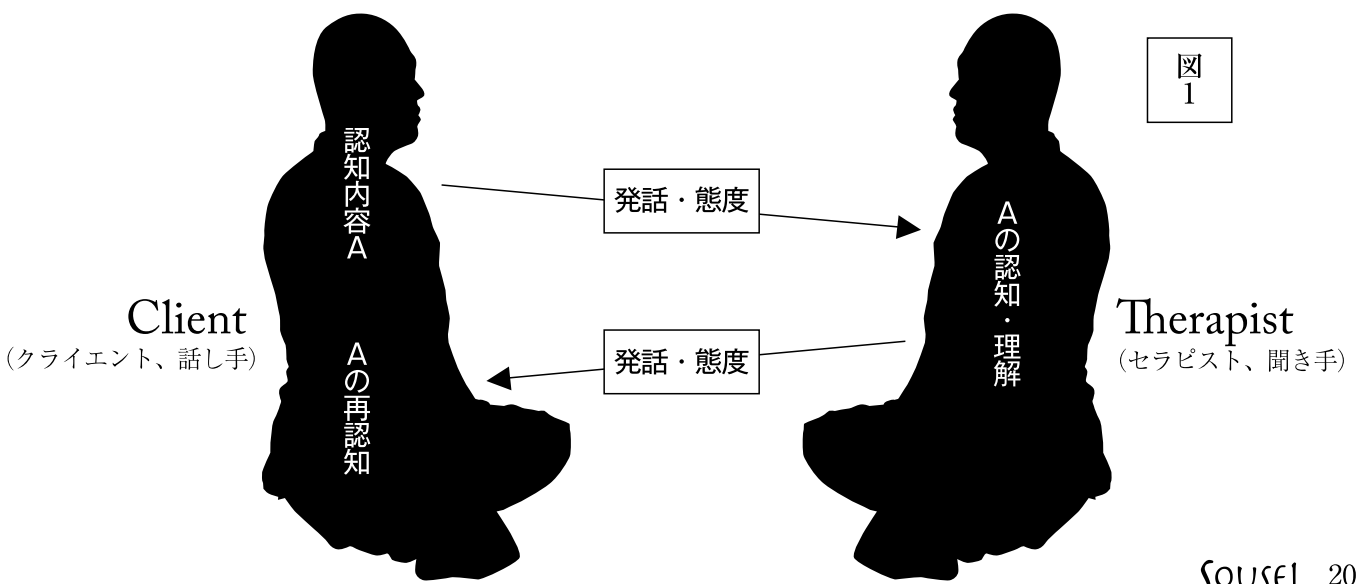
傾聴において重要だとされるのは「受容」「共感」「純粹性」という三つの態度条件だとされます（傾聴する側にとって）。これらの態度条件についても、学人のありようと重ね合わせることでできるようになります。特に、「受容」については、『信心銘』の「至道無難 唯嫌揀擇」とか洞山大師の「寒時寒殺 熱時熱殺」といった言葉が思い浮かびます。しかし、本稿では、これらの態度条件ではなく、「感情の反射」と呼ばれる技法をとりあげます（三つの態度条件とも関係してくることはありますが）。

傾聴には、具体的な技法はほとんど

ないと言われていきます。ですが、唯一技術らしい技術というと、「感情の反射」と呼ばれる方法がそれに当たるでしょう。たとえば、話し手が「辛いです」と言ったら、聞き手は「辛いんですね」と応答するようなやり取りが例としてあげられます。傾聴法の元祖であるロジャーズ自身は、この技法について次第に言及しなくなっていくたようですが、現在でも、傾聴活動において広く用いられている方法です。

諸富祥彦氏は「感情の反射」を「クライエント（話し手）に相当します」が今ここで感じつつあることを、評価や偏見を加えずそっくりそのまま受け取って返していく応答のこと」と規定しています。また「クライエントの鏡になる」というようにも説明されます。ロジャーズは、晩年に、「感情の反射」を「理解の確かめ」「受け取りのチェック

図1



# Metacognition (メタ認知)



図2

「ク」と言い換えることを提案していきませんが、その内容は「クライアントがそれを今体験している通りに私がそれを見ているか、確かめようとしている」ということであり、行う作業自体は変わらないと思われます。この方法は、上記の例のように話し手の発言を傾聴者が繰り返すことから、しばしば「オウム返し」と揶揄的に呼ばれますが、このロジャーズによる規定を見ても、オウム返しをしていればよいというものではありません。

傾聴は、感情の反射も交えつつ、話し手と聞き手が対話をし、話し手自身が気づきを得ることを目指します。この過程は、話し手の内的世界を聞き手が表現することにより、話し手によって認知された内的世界を、話し手自身で再認知することだと言えるのではないのでしょうか。このことを図示すると図1のようになります。

## 2 傾聴とメタ認知

先々号で、メタ認知は「認知についての認知」と言いました。このことは、メタ認知機能を通じて、対象レベルの認知を再認知していると言い換えてもいいのではないかと思います（特に、メタ認知のモニタリング機能が該当します）。よって、先々号の図とは異なりますが、メタ認知は上のようにも図示できるでしょう。

ここで、図1と図2を比較してみてください。似てはいませんか？ 図1の「聞き手」の位置に図2だと「メタ認知」があります。このことから、傾聴において、聞き手は、話し手のメタ認知機能を外部化し、補助または代行しているとは言えないでしょうか。あるいは、メタ認知というものが、あくまでも個人の内的過程だとすれば、その一部が外部化され、対話プロセスの中で機能すると思うのですが、いかがでしょうか（上掲の図については、適切にモデル化できているか、今ひとつ自信が持てないのですが）。

また、図1からは、話し手側にメタ認知が機能していることが読みとれます。一方、聞き手は、話し手の話を注意深く聞き、ありのままに理解しなければなりません。この作業は、聞き手にとっても自身の認知（話し手が話したことが認知内容になります）を観察することになり、坐禅と同じことをしているといえます。したがって、先号で述べたように、必然的にメタ認知が機能していることになります。

このような次第で、傾聴においてもメタ認知が重要な役割を果たしているのではないかと推測しますが、必ずしも筆者の臆断ではないかと思っております。その根拠については、紙幅の都合により次号で述べます。

【参考文献】諸富祥彦、『カール・ロジャーズ入門 自分が自分になるということ』コスモスライブラリー、2008



## 傾聴は、話し手に 坐禅と同じことをさせている (かも?)

青野貴芳（あおの きほう）  
1970年静岡県生まれ。東京大学大学院満期退学。大本山永平寺、宝慶寺にて安居。現在、養雲寺副住職、中里保育園園長、愛知学院大学・富士市立看護専門学校非常勤講師、全曹青広報委員会委託委員。

# 04 Air Mail 海外ZEN通信

ヨーロッパ国際布教総監部庶務担当／釜田尚紀



禅道尼苑全景

## Combien de fois on y va cette année ? (今年は何回?)

そういえば先日、国際禅協会 (Association Zen Internationale、略称 AZI) から弟子丸師の没後 30 周年法要の案内状が届いた。4 月末、禅道尼苑にて——。胸に去来するのは「弟子丸さん亡くなってもう 30 年なのか…」という感慨。そして頭の中ではカチリとカウントメーターが書き変わる音がする。

AZI とは弟子丸師が残した禅グループの名称。現在、パリの 13 区に仏国禅寺という道場兼事務所をかまえる。そして禅道尼苑とは、古城群で有名なロワール地方に彼らが所有する広大な敷地を持つ寺院 (総面積 75 ヘクタール、甲子園球場なんと約 20 個分!) のことだ。AZI の大きな摂心や行持はきままってここが会場となる。

パリから車で 2 時間 +  $\alpha$  (アルファはその時の交通事情により予測不能)、その車中で僕は決まって、今年は何回訪れることになるのかとその数を話題にする。同僚はかつて大きな行事のあった年、この道を約 20 往復したという。ヨーロッパ国際布教総監部では、毎年主催する研修会や協議会を禅道尼苑で開催させてもらっており、その他の恒例行持を含めると、少なくとも年間 4 回の拝登が確定している。さすがに 20 の大記録は破れないだろうけれど、飛行機のマイレージのごとく毎年の禅道尼苑拝登数は密かな関心事であったりする。(けしてマイルは貯まらないが…)

個人的にパリという街が苦手な僕にとって、禅道尼苑という田舎にある広大な森の中のお寺は、長い運転時間さえ除けば、とても心地よい場所である (もっとも運転するのは同僚なのだが)。大きな木々に囲まれ、静かな木漏れ日のなかに響く鳥のさえずりが心地よい。またお寺なので集まる人々は (パリと違って) 優しく親切だし、野菜畑があって、パン焼き窯土があって、とにかくいただく食事がべらぼうにウマイ。

夏のヴァカンスシーズン、禅道尼苑では弟子丸師の遺弟たちがかかわるがわる摂心を行い、各地からたくさんの参籠者がつめかける。昨年も合計約 1000 人が訪れたそうで、

数多くのベッドが用意されているものの、それでも足りない場合は、広い緑の庭に複数のテントが花開く。

一方で常住している僧侶の数は少ない。摂心時には、代表の指導者役を務める僧侶の寺院からその常住僧がスタッフとして入ったり、AZI メンバーがボランティアで手伝うなどして運営が成り立っている。機能からみれば AZI のセミナーハウスのような施設ということができらるだろうか。

現在 AZI には約 120 の関連寺院および道場がヨーロッパ各国に大小存在し、メンバー数は約 1800 人、曹洞宗禅グループとしてはヨーロッパで最も大きな組織となっている。小さな道場は都市部に、大きな寺院は田舎にというのが特徴だろう。都市部の道場では、指導者も含め、朝夕坐禅して昼間は仕事を持っている人が多い。そして月一の摂心や、夏・冬には長い摂心を田舎の大きな寺院で行い、坐禅だけではなく、作務、諷経、提唱などがもりこまれた僧堂修行を行うのだ。一方で大きな寺院では、僧堂修行を求めて仕事を辞め集まった僧侶がおよそ 10 人ほど常住し、日々の修行に励んでいる。

禅道尼苑は 1979 年に開設された。ときおり禅道尼苑という表記を見て、「尼僧さんが多いんですか？」と質問される方がいるが、残念。ヨーロッパでは男性も女性も一緒になって修行をするのがスタイル。その名は所在する土地名 Gendronnière (ジャンドロニエール) をもじったところからきており、尼僧堂といった特別の意味はないらしい。当時は常住の修行者もかなり多かったようだ。夏になれば各地の道場からも参禅者が摂心に加わり、さぞ活気に満ちた場所だったに違いない。

そして 30 年の歳月を経ても、いまなお往時への思いをはせ、多くの参禅者がここに集う。そんなスペシャルで、僕らにとっても身近なお寺、禅道尼苑、今年はいったい何回訪れることになるのだろうか？

# 青年僧が

# いく!

## 第2回

今回の訪ね人



公益社団法人シャンティ  
国際ボランティア会  
東京事務所 近藤光俊師

### 全

曹青会員の等身大の姿に迫る本コーナー。第2回目は全曹青庶務の近藤光俊師。平成18年に大本山永平寺に安居し、伝道部や監院寮を経験。その後、北海道中央寺僧堂で更に研鑽を積んだ後、SVA（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）東京事務所に入る。昨年3月11日の東日本大震災の後は、岩手県遠野市の事務所を拠点に活動を続けてきた。今なお仮設住宅での生活を強いられる方の多い地域で移動図書館活動を続けながら、近藤師は本を届けるだけでなく、「文化」や「繋がり」の再構築をサポートしているという思いを強く抱くようになったという。

「SVAに携わるきっかけを教えてください」

以前から師寮寺の活動を通してSVAとの関わりはありましたが、一年の夏に東京事務所の広報課でインタビューをするようになりました。

「現在の活動は？」

昨年震災以降、SVAは6月に岩手県遠野市に事務所を開設、7月から同県陸前高田市・大船渡市・大槌町・山田町の4市町村で移動図書館活動を続けています。私も6月の事務所開設に携わり、9月から現在に至るまで、遠野事務所に寄宿しながら活動させていただいております。仮設住宅を巡回して本の貸し出しや返却の受付を行っています。また、地元の人同士をつながりが生まれていくように、コーヒーやお茶を提供したり、季節によっては日傘や机、イスなどを屋外に用意し、皆さんが寄り合って談笑しやすいような空間を作れるよう心掛けて、活動を行っています。本のリクエストにもお応えしていますし、読

んだ人の「きっかけ」になるような本をお届けしたいと思っております。

「2月5日には、大槌町に『かねざわ図書室』もオープンしました」

夏に大槌町から廃校を使って常設の図書室を開設するお話をいただき、半年以上掛けて準備を進めてきました。現在はSVAが図書室を管理し、月・木曜日の週2回、図書室を開放しています。

「震災から1年を経て、どのような変化を現地で感じますか？」

地元の方々は一生懸命、色々な活動に取り組んでおられます。その中で、外から来た人の力が、地元の人を支えになっているのは間違いないと思います。一緒にその場について、悲しみも喜びも共感している。一緒に歩いていこうという姿勢の人たちがいる。そのこと自体が、地元の人にとっては励みになっています。ただ、復興自体は少しずつ槌音が聞こえてきてはいますが、ま



まだまだ先は見えない状態です。

「3月で一旦岩手を離れ、今後も被災地支援の活動は続けていくとのことですね」

今は地元出身の方のSVAスタッフが多くなっています。私たちと地元の方々が力を合わせ一緒に運営をすることで、「SVA以外から来た力」ではなく、「現地の力」になりつつあります。ボランティアというのは「黒子」であり、支えて背中を押す存在だと私は思っています。その中で大勢の人たちに、被災地に来て、そして考えて、感じて、思ってもらいたい。東北の人たちはとても良い人ばかりです。

この日も地元スタッフの方とともに、大槌町役場との会議や、新しく巡回する仮設住宅の下見、住民とのミーティングにと忙しく動く中に、近藤師の使命感と充実感が垣間見えた。言葉にあった「支えて背中を押す存在」こそが、私達の目指す菩薩行の実践の姿となるだろう。

取材／広報委員会 宮入真道

# 各管区加盟団体紹介 「関東管区」



## ● 関東管区

関東管区8都県からなる10宗務所であり、各県青年会では、坐禅会・托鉢などたくさんさんの活動をしており、懇親を深める為の年一回の関東連絡協議会・ソフトボール大会、たまに行う各県の大会の随喜以外に集まる機会がないのが現状であり、管区で活動をする機会があまりないのでソフトボール大会以外でも親睦を深めていきたいと感じております。

関東管区の場合、埼玉県・茨城県・千葉県・山梨県の4県が全曹青に加入してありますが、それ以外の4県が加入してない事が寂しく思われることがあります。これまで、全曹青に関わって、法要に詳しい方、たくさんアイデアを持っている方、今回の東日本大震災などのボランティアに一生懸命な方との出会いがあったことに感謝しております。青年会として全曹青とどのように関わって行くのかを重点に、各県青年会の色々な考え方がありますが、少し違う角度から「人との出会いの喜び」としてとらえ、色々な僧侶の皆様が全曹青に参加していただくことを切に願います。

関東管区理事 山本泰幸

## ● 埼玉県第二宗務所青年会彩青会

埼玉県第二宗務所青年会彩青会は、平成5年に発足し、宗務所管内寺院に僧籍を有

する45歳以下の青年宗侶により構成されています。現在会員も88名を数え、一般の方を対象とした禅の集い、会員諸兄の研鑽である法式研修、宗務所行事への協力等の活動をしております。現在は管内各地域の会員も増加し、会員相互、雰囲気良く活動しております。

今年度は、兵庫姫路市海久寺住職中村典篤老師をお招きして、授戒会の講義を開催しております。全5回の講義の中で、授戒の意義から法要の細部に至るまで、懇切丁寧にお話しただいております。その講義を受講した会員から、是非授戒会をやりたいという意見が出されました。そこで、発足20周年を迎える当会の周年記念事業として授戒会を企画し、現在準備を進めているところです。他の青年会で開催した内容を見聞するに、難しくも感じますが、当会で実現できる手作りの授戒会を目指して進めていきたいと思っております。

埼玉県第二宗務所青年会会長 今泉至成

## ● 茨城県曹洞宗青年会

東日本大震災直後、全曹青をはじめ各青年会より心温まる災害見舞を頂戴致しました事、この場をお借りして御礼申し上げます。茨曹青は被災県でありますので、3月16日より大洗瓦礫撤去に参加。25日には北茨城瓦礫撤去。29日～4月1日には高萩市総合福祉センターで、8日には福島県の名浜高校で炊き出しを行いました。14日は県内寺院作務並びに、福島県いわきにて瓦

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です



ひとりぼっちと思わないで…  
どんなことでもお電話で  
ご相談下さい。

Tel 080-1546-7464  
Tel 080-1547-5646  
毎週日曜 22:00～24:00  
※相談料は無料(通話料は必要です)

両大本山御用達  
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本 社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号  
(大須交差点東北側)  
TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904



礫撤去と行茶活動。19・20日は県外ボランティア活動として、福島県南相馬市にて瓦礫撤去と避難所五箇所で2日間の行茶活動を行いました。5月9～11日、いわきにて瓦礫撤去と行茶。5月13日は春の交通安全週間に合わせて、交通事故殉難者慰霊行脚並びに東日本大震災支援鉢鉢。28日は稲敷市にて支援物資分けをいたしました。

7月3日は公共施設にて「第14回一日参禅会」を実施。8月20日には、南相馬市復興イベント「災害ボランティア感謝の集い」に招待され意見交換をいたしました。その後、全曹青災害復興支援部を訪問し茨曹青のボランティア活動の状況を報告致しました。当会の基幹事業であります「第38回縁蔭禅の集い」は、9月3・4日の両日「向きあう 伝える 支えあう」をテーマに修行了しました。12日には外部講師を招き「人々の心に向き合うために」震災ボランティア活動」を、25日には茨城県仏教会主催の各宗派仏教青年会会長等懇談会があり、運営及び活動状況並びに東日本大震災の対応状況の意見交換をしました。11月14・15日と、全曹青災害復興支援部を経由して宮城県山元町の仮設住宅にて行茶。2日間とも被災者からの要望並びに所感を本部に報告しました。12月8日は「摂心成道会」を修行了しました。15日は救命講習会の後献血を実施。

1月19日は勝田駅周辺で寒行托鉢、2月8日は上山安居指導会を行いました。震災から一年を迎えた3月11日には、禅文化学林「慰霊・復興祈願法要」に随喜、引続き12日は山元町にて行茶・紙芝居を披露させて頂きました。今後も東日本大震災からの

復興を念じつつ、会員一同切磋琢磨し合つて宗門の研究・布教・親睦を目的に弁道精進致す所存であります。24年度は、茨曹青創立55周年でもあります。何卒一層のご法愛のもと、ご指導ご鞭撻賜ります様お願い申し上げます。

茨城県曹洞宗青年会会長 齋藤龍雄

### ● 千葉県曹洞宗青年会

当会は千葉県内の曹洞宗青年僧侶による任意団体です。昭和43年に発足し現在40年を超え活動を続けております。会員資格として千葉県内の曹洞宗寺院に僧籍を置く18歳以上40歳未満の者を対象としております。会員数は約80名、会長及び執行部は2年ごとに改選しております。

会則第2条「本会は、曹洞宗の教義に計り、釈尊及び両祖の精神を体得して正法の実践流布につとめ、もって社会の浄化発展に寄与することを目的とする」。当会ではこの会則を根幹にその目的達成のために事業を企画し展開しております。近年は「ハガキリサイクル運動」というボランティア活動を行い、アジア子供教育支援図書活動に取り組んでおります。また昨年度は東日本大震災に伴い物資支援・義援金托鉢・現地での行茶活動・瓦礫除去等の活動に参加いたしました。活動詳細はHPで閲覧できます。これからもその時が必要か、求められているものは何かを考え会員一丸となって活動を展開してまいります。

千葉県曹洞宗青年会会長 宮下晴祐

### ● 曹洞宗山梨県青年会

山梨県は、500余りの曹洞宗寺院があり、日蓮宗の総本山（身延山）ありといえども、県内では一番多い数です。ただ、人口の割に寺院数が多いため、その運営にも工夫が求められます。そのため、他の仕事を兼務している会員も多く、限られた時間を如何に有効に使うかなど、試行錯誤しながら務めています。

いま山梨県青年会のテーマは「自力」です。未だに混迷する世の中において、大きな不安を抱えている方はたくさんいらっしゃると思います。私たち僧侶は、そんな方々の「灯」にならなくてはなりません。そのためには、まず自力をつけることが大事です。

この一年の研修は、葬儀の中心でもある「戒法」を再点検し、自らの行いを見直しながら、どのように人々に対して「法の潤い」を与えていくのかを考えます。

また、法要、坐禅、広報を通じた布教活動や、ボランティア活動も充実させていきたいと思っています。地味ではありますが、しっかりと力をつける2年間になるように精進してまいります。

曹洞宗山梨県青年会会長 水庭浩章



あなたの未来を強くする

住友生命

あなたの未来を強くする

お客様の人生を守ること  
私たちの仕事の原点はそこにあります。  
安心は、もっとうっ前進できる  
何よりも、お客様の未来を強くしたい  
これが住友生命の想いです。

住友生命保険相互会社  
本社 〒540-8512 大阪市中央区城見1-4-35  
東京本社 〒104-8430 東京都中央区築地7-18-24  
詳しくは最寄りの支社またはスマセイメイトまで。  
<http://www.sumitomolife.co.jp> 住友生命 検索



お問い合わせ kusu.taiko@gmail.com

三重県曹洞宗青年会では、教化活動の一環として  
**和太鼓**に取り組んでおります。

曹洞宗青年僧侶が只管に打つ太鼓演奏を、檀信徒の方々にもご覧いただき、  
布教教化や地域交流のきっかけになればと願っております。

三重県曹洞宗青年会



## 法式委員会

### ■石黒英龍委員長



全曹青における法要全般を主管するのが当法式委員会です。3月11日の慰霊法要や4月26日の千僧法要等、会員諸師の目に触れることも多い委員会ですが、『僧堂清規』の研修会では参加者と和合して実りある研修会にしたいと思っております。今期の新刊発行は予定しておりませんが、再版事業を通して会員諸師の参学の一助になればと願っております。残り1年となりましたが、一層のご支援をお願いいたします。

### ■加藤康由委員



愛知東三曹青より、前期に引き続き第19期法式委員会に参加させていただきます。今期は主に、前期に作成致しました面山瑞方老師撰「洞上僧堂清規行法鈔」を研鑽し、実際の行持を目的に研修会を行っております。微力ではありますが委員

長そして、委員諸師と力を合わせ、全曹青の一委員として第19期も委員会活動に尽力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

### ■稲本顕隆委員



大阪曹洞宗青年会から参じております。第18期より引き続き委員をさせていただきます。いろいろ経験させてもらえており、いろいろな経験させてもらえらる場として勉強になっております。今期もあと1年ですが、自分の出来る限りの活動をしていきたいと思っております。

### ■吉岡統親委員



福島県より参加しております。委員会の活動に取り組みさせていただきますとともに、全曹青復興支援活動にも積極的に参加し、会の活動に貢献できるように、自身にとつても有意義であるよう精一杯頑張つて参ります。どうぞよろしくお願いたします。

### ■菅生匡倫委員



第19期より務めさせていただきます。初めての全曹青で戸惑うことばかりです。浅学非才ではございますが、この任を全うしていきます。

と思います。委員長をはじめ他の委員と協力し、2年間を法式委員として精進努力いたします。どうぞよろしくお願いたします。

### ■仲倉幸雄委員



この度、曹洞宗鳥取県青年会より第19期全曹青に参加させていただきますことになりました。浅学非才のうえ、初めてのことはかなり戸惑いもありますが、諸先輩方からご指導を賜り、微力ながら努めて参りたいと思っております。何卒よろしくお願申し上げます。

### ■川本哲志委員



愛媛県曹洞宗青年会の川本哲志です。全曹青活動に参加させていただきますことになりました。折角の良縁を蔑ろにすることなく、微力ながら精進、尽力いたす所存です。当委員会と地元曹青会とに於いて、広い視野と柔軟な姿勢を展開しつつ、宗意宣揚に繋がる活動を模索して参ります。

### ■河口智賢委員



この度、法式委員会の役を任せられました。全曹青の一員として皆

さま方と務めさせていただくことは大変貴重な研鑽の場と自覚し、多くのことを学ばせていただくものと存じます。我々の活動を通じ、全国の青年僧侶の方々にも、共に様々な形で実践し、更なる研鑽を積んでいただきたいと思います。今期よろしくお願いたします。

### ■中井良岳委員



愛知県第三曹洞宗青年会の中井と申します。昨年は大本山永平寺名古屋別院様にて読経練習用動画作成に関わり、無事に全曹青HP「般若」に公開する事ができました。一法式委員として会員の皆様と全曹青がより身近に感じられるよう、会員の皆様にとつても、私自身にとつても記憶に残るような活動を心掛けたいと思っております。今後も全曹青を通じて多くの方々との「絆」を感じ、諸先輩宗師の軌跡を見習いつつ、青年僧侶たる柔軟な好奇心に基づいた法式への参究心を大切に、「新たな一歩」を踏み出して一生懸命精進して参ります。

### ■福田智徳委員



大震災より一年、震災、諸災害にて被害にあわれました方には改めてお見舞い申

し上げます。法式委員会として活動させていただいて、たくさんのお機会をいただき感謝いたしております。歴代の祖師方が引き継いでこられた正しい法式を参究しつつ、新しい現代のエッセンスを取り込んだ、活動ができます様、これからも精進してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

## 法式委員会から

前期全曹青にて発刊された『洞上僧堂清規行法鈔』(以下、『僧堂清規』)を底本として研修会を企画しております。この『僧堂清規』は江戸時代の学僧、面山瑞方老師によつて著された清規で、現在の宗門の行法の源流とも言える清規であります。

読み進めると、面山老師当時の行法が如何に現代の行法に大きな影響を与えているか、また、道元禪師当時の行法との相違点を探る上でも大変重要な清規であります。面山老師の宗風に触れて頂き、文字通り会員各位の参学の一助として頂きたいと思っております。今後『SOCOM』及びホームページ『般若』にてご案内させていただきます。また再版も進めておりますので、まだ『僧堂清規』をお持ちでない方もこの機会に是非手にして頂き、宗門の伝統に触れて頂けたら幸甚に存じます。



「同事」 撮影／披田野 享さん

全ての生命を平等にはぐくむ水。この写真ではトンボとその羽根の陰に目を奪われると思いますが、左の石の上にも頭を出したカジカガエルの存在に気が付きませんか？そしてこの水の流れの中にも、水生昆虫や微生物と言った「見えないけれど確実にそこにいる」、がたくさんあります。それら全てにこの清らかな水は平等に流れています。私もこのような場所に行く時は、その他の生物と同じ空間に存在できる幸せを感じています。【撮影地／三重県津市】

【写真の募集要項】全曹青広報委員会では、皆様からの写真作品を募集しております。詳しくは下記のメールアドレスまでお問い合わせください。  
photo@sousei.gr.jp 次回テーマは「喜心（ぎしん）」です。

■表紙の話 「真似てみる」

私たちには、偉大な祖師方から授かった膨大な智慧があり、それを学んで実践していくことで、さまざまな困難を乗り越えて成長していくことができる。教える側も教わる側も同じで、学んで行く上で、まず形からでもいので真似てみるのが第一歩である。そんな意味を込めて、今回の表紙としました。

撮影／日山賢吾 デザイン／広瀬知哲



編集後記

未曾有の大震災より一年が経ち、各地で一周忌の追善法要が行われました。熊本県でも寺院並びに寺院一般の方を招いての法要が厳修されました。遠く離れた我々としても被災地の復興、支援は切なる願いであります。

先日宮城を訪れたのですが、空港に降り立った瞬間に復興の早さに驚きました。まさに被災地から復興地へと変わっているのだと感じたのであります。板橋興宗禅師がよく『威人力』とお話になっていたのを思い出します。意志をもった行動のすばらしさを説かれていたのですが、まさにその通りではないかと改めて言葉の意味を深慮しました。しかし、復興が進んでいるのはあくまでも空港近辺、仙台市内においてのような気がします。震災直後から進展していないことが多くあるのが現状です。

青年僧として被災地と向かい合っただけで支障することの重要さを思い知らされました。被災地から遠く、現地での支援は頻りにできないのですが、願わくば各地から集められた義援金を被災地の復興へと役立てていただきたいものです。

(広報委員 紫安敬道)

守り伝えられし大切な伽藍、  
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震



http://www.caname-jisha.jp

■本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 電話：028-663-6300  
■名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23 電話：0586-71-2882  
■岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13 電話：086-245-2541



フェイスブック  
ってなんだろ？



## いまさら聞けない！？ Facebook！

最近よく聞く Facebook という言葉。雑誌には Facebook ページ開設しましたと書いてあるし、インターネットを見ていると Facebook と書かれた青い画像をよく見かけます。顔？本？いったい何！？

### ■ SNS とは

Facebook は SNS と言われるサービスの一つです。SNS とは、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で「人と人とのつながりを促進・サポートする会員制のサービスの事」を言います。自分の近況や主張を投稿したり、写真や気になるサイトを自分のページに載せたり、また友だちのページにコメントしたりすることを通して、連絡をとることが叶わなかった旧友や、ネット上で出会った新しい友人とコミュニケーションを取ることが出来ます。運営費は広告料でまかなわれ、無料で利用することができます（個人情報の流出を目的としたアプリケーション等もございませぬのでご注意下さい）。ホームページ作製の特別な知識も必要ありません。

### ■ Facebook とは

2004 年アメリカでサービスを開始しました。当初は、ハーバード大学内の学生同士の交流を図るためのサービスでした。顔の見える（相手が誰であるのかが分かっている）学生名簿の様なサービスは、数日のうちに他大学からの要望を受け、瞬く間にアイビー・リーグに広まり、そして 2 年後には一般公開されました。2011 年にはサイトのアクセス数が検索サイト最大手の Google を抜き話題となりました。現在、世界中に 8 億人を超えるユーザーを持つ、世界最大の SNS となっています。

Facebook の特徴は、「実名」で登録し、現実社会の知り合いとインターネット上で交流できるという点です。最近では企業や団体などで Facebook 内にページを作成し、宣伝広告や業務などに活用する事が多くなってきました。ユーザー数の多さを生かして世界にアピールすることができます。また、知り合い同士のコミュニティなので、評判にも信憑性があるのです。

### ■ 登録の仕方

まず Facebook にアクセスしてください (<http://www.facebook.com/>)。トップページ右側の新規登録欄があります。各項目に入力したら「アカウント登録」をクリックしてください。次のページでセキュリティチェックのために英単語を打ち込むと、登録したメールアドレスに登録確認、完了のためのメールが届きます。



### ■ 使い方

いきなり記事を投稿すると言っても勇気が必要かもしれません。まずは、あなたの友だちを探してみましょう。検索窓に友だちの名前を打ち込んでください。同姓同名に注意しながら、写真や基本データから本当に自分の友だちか確認して下さい。確認ができたなら、右上の「+友だちになる」ボタンをクリックして下さい。友だちの申請が相手に届きます。ただ、友だち申請の時に申請のみでは失礼にあたると思われる方もいらっしゃる。念のため、「+友だちになる」ボタンの右隣にある「メッセージ」ボタンをクリックして相手にメッセージを送りましょう。親しき仲にも礼儀あります。このメッセージは、メッセージを送った相手と自分しか見ることが出来ないプライベートなメッセージです。

次は、友だちのウォールを見てみましょう。ウォールというのは、友だちが発信した情報が時系列に並んだページです。あなたがウォールを読んで感心したり、共感したりした記事があれば、気持ちを友達に伝えるべく「いいね！」ボタンをクリックしましょう。もしも、あなたの友だちが逃げ出したペットの事をウォールに書き込んだとしましょう。あなたがペットを探すのもいいですが、一人で探すよりもより多くの人で探したほうが、見つかる可能性は高くなります。そんな時は、「シェア」です。有る特定の記事を「シェア」することで、あなたの他の友人に拡散することができるのです。

### ■ 全曹青と Facebook

全曹青では予てより、情報共有の即時性・一般向けの情報の発信を考慮し、公式サイト『般若』での情報発信をしてきました。現在、『般若』の月間アクセス数は約 5,000 件を記録しています。この度 Facebook を利用してさらなる情報発信に努めることにしました。青年宗侶の利用も多く、情報共有の利便性を考慮してということ、また『般若』の存在を知らない青年宗侶が多いという指摘への積極的な回答として、さらには「全曹青」の存在を知らない一般のユーザーへも活動への理解を深めてもらうという目標からです。数あるサービスの中から Facebook を選んだのは、上記のように実名登録が基本であるという安心感、情報の出所の確実性からでした。是非 Facebook に登録いただいて、人と人との新たなつながりを楽しみましょう。  
(<http://www.facebook.com/19zensousei>)

## 全曹青より 連絡事項

### ○中央研修会

日時：5月25日／10時～12時

場所：檀信徒会館桜の間

主題：「青年僧侶による災害復興支援 一クロスロードによる振り返り」

### ○定期総会

日時：5月25日／13時半～17時

場所：檀信徒会館桜の間